

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

令和4年1月号



【西牟婁振興局】1/27 アグリビギナー等技術経営研修を開催

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-2
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】 ～「植美」の貯蔵性調査を実施～ ～農地貸借に関するアンケートを実施～	
2. 海南市4Hクラブ連合会視察研修を実施	
II 那賀振興局	3-4
1. カメムシ越冬量調査を実施	
2. 合同研修会「私たちの地域の有機農業の取り組み」を開催 ～紀の川市環境保全型農業グループ、那賀地方有機農業推進協議会～	
III 伊都振興局	5
1. 観光いちご狩り園の開園	
IV 有田振興局	6
1. ウメ「南高」慣行樹および摘心樹のせん定講習会を開催	
2. ウメ「露茜」の樹勢強化栽培実証園を設置	
V 日高振興局	7
1. 「ゆら早生」の摘果作業の軽減による省力化と安定生産の推進	
VI 西牟婁振興局	8
1. アグリビギナー等技術経営研修を開催	
VII 東牟婁振興局	9
1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】 ～みくまの産地協議会産地面談会を実施～	
VIII 就農支援センター	10-11
1. 切り花の取り扱いに関する特別研修を実施	
2. 紀南地域で産地研修を実施	

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】

～「植美」の貯蔵性試験を実施～

農業水産振興課では、JAながみねと連携して、今年度から海南省下津地区特産の貯蔵みかんに適した浮皮の少ない普通温州「植美」の産地導入を推進している。1月21日に営農指導員と下津地区内の貯蔵庫に貯蔵している展示圃等の果実について貯蔵性調査（糖度、酸度、果実重、果皮障害の有無）を実施した。その結果、主力品種である「林温州」と比較して、糖度、酸度ともに0.3程度高く、果皮障害は認められなかった。

今後は、2月下旬に最終の貯蔵性調査を実施するとともに、生産者向けの食味評価検討会を開催する。



貯蔵中の果実

～農地貸借に関するアンケートを実施～

農業水産振興課では、JAながみね下津柑橘部会と連携して、1月中旬から部会員（284名）に農地貸借に関するアンケート調査を実施した。

1月12日に部会運営委員会において、運営委員（約25名）に下津地区では総農家数及び結果樹面積の減少が進むなか、今後産地を維持していくためには、農地の荒廃化を未然に防ぎ、担い手に流動化する取り組みが重要であることを説明し、アンケート調査への協力を呼びかけた。なお、調査内容は、①氏名、年齢、②住所、③農業経営状況、④農地に貸借意向である。2月中旬までにアンケートを回収した後、調査結果を分析し、部会員にフィードバックするとともに、農地貸借の意向がある農業者向けに農地相談会等を開催し、部会員間での農地流動化につなげていきたいと考えている。



運営委員会での説明



アンケート回収箱

2. 海南市4Hクラブ連合会視察研修を実施

海南市4Hクラブ連合会（会長：大谷龍児氏）では、昨年度から販路拡大によるリスク分散とブランド力向上を目的とした活動を展開している。その一環として、東京都の株式会社ポケットマルシェ本社と青山ファーマーズマーケットの視察研修を実施し、クラブ員および関係者含め9名が参加した。

1月7日、産直ECサイトを運営している株式会社ポケットマルシェを訪問し、サービスの概要や利用方法、販売の工夫等について説明を受けた。参加したクラブ員の半数はポケットマルシェを利用しており、活発な意見交換も行われた。クラブ員からは「これを機会に利用したい」、「スマホで手軽に利用できるのがありがたい」、「販売のコツなど意見交換ができてよかった」等の感想があがった。

翌1月8日には青山ファーマーズマーケットを視察した。全国各地から野菜や果物、加工品等が出店され、品揃えが豊富で、各店舗の特色が感じられた。クラブ員は興味のある店の販売員に話しかけ、商品の生産背景や販売方法を確かめながら熱心に話し合いをしていた。

当課では、今後も先進地研修や各種情報の提供を通じて、活動支援をしていく。



ポケットマルシェ訪問

Ⅱ 那賀振興局

1. カメムシ越冬量調査を実施

1月26日、那賀地方病虫害防除対策協議会※（会長：下田和敬二氏）は、7月までの果樹への発生量や被害量を予測するため、カメムシ越冬量調査を実施した。紀の川市内7地点（粉河、中鞆、切畑、切畑、赤沼田、桃山町黒川、貴志川町高尾）において、山林内の落ち葉を50リットル採集し、ポリ袋に密封した。その後、採集した落ち葉を広げ、カメムシの種類毎の頭数を調査した。結果、チャバネカメムシとツヤアオカメムシが1匹ずつ捕獲され、昨年より多く、平年値（H23～R2）並みであった。

調査結果は、本協議会構成員で情報共有するとともに、防除指導資料として活用する。

※協議会構成メンバー：市、JA、JA農業振興センター、農業共済、農業試験場、病虫害防除所、振興局



カメムシ越冬量調査（落ち葉の採集）

2. 合同研修会「私たちの地域の有機農業の取り組み」を開催 ～紀の川市環境保全型農業グループ、那賀地方有機農業推進協議会～

1月27日、紀の川市環境保全型農業グループ（会長：小林元氏）と那賀地方有機農業推進協議会（会長：関弘和氏）では、ここ数年でそれぞれ役員交代があり、過去の活動を知らない会員も増えてきたため、グループ活動の「今まで」と「これから」を学ぶ「私たちの地域の有機農業の取り組み」というテーマで合同研修会を開催した。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、オンラインのみでの開催となったが、非会員も含め39名が研修会に参加した。

両グループに所属している高橋範行氏が司会を務め、まず小林会長と関会長から各グループの紹介があった。続いて、両グループの設立に尽力し、紀の川市環境保全型農業グループ前会長でもあった畑敏之氏から『地産地消と食育で「いのち」輝く紀の川市をめざして』と題して、地域内の資源循環を目標として今まで行ってきた活動について講演があった。

後半では、昨年5月に策定された「みどりの食料システム戦略」について、近畿農政局生産部生産技術環境課長の上山正氏から世界情勢を含め、概要説明があった。

本研修会を通して、自分たちの活動が今以上に地域と関わりをもった活動となるよう、今後も両グループで協力していくことを参加者らで確認した。

農業水産振興課では、今後も両グループの自主的な取組を支援していく。



講演する畑氏

Ⅲ 伊都振興局

1. 観光いちご狩り園の開園

伊都管内のイチゴ農家は16戸あり、2.4ha栽培している。そのうちの4戸(1月開園2戸、3月開園2戸)の農家がいちご狩りの観光農園を行っている。開園に向けて各農園では新型コロナウイルス感染症の予防対策として、予約時に入園者の人数を制限する他に農園入口に消毒液の設置し、来客者に手指の消毒やマスクの着用を促すなど取り組みを行っている。

農業水産振興課では、イチゴの栽培指導とともに、観光農園に対して、和歌山県新型コロナウイルス感染症予防対策認証制度を説明している。認証希望者にはガイドラインに基づき調査を実施し、適合する場合は認証マークの交付を行っている。



普及指導員によるイチゴの生育状況確認



受付でのコロナ感染予防対策

IV 有田振興局

1. ウメ「南高」慣行樹および摘心樹のせん定講習会を開催

1月12日、JAありだウメ部会（部会長：西建一氏）がうめ研究所、農業水産振興課協力のもと、有田川町金屋のウメ園で慣行樹および摘心樹のせん定講習会を部会員及び営農指導員25名を対象に実施した。

城村普及指導員が講師を務め、慣行樹は、まずはじめに不必要な徒長枝や太い立ち枝を取り除くこと、主枝の先端は強く切り返し、垂主枝は主枝より強くないように弱く切り返すこと、すそ枝の処理、老化枝および枯れ枝を整理すること等を実演しながら説明した。

摘心技術は、結果枝の増加が図られ増収効果が期待できること、徒長枝の発生が少ないため冬季のせん定作業が省力できること等を説明した後に実演した。摘心により結果枝が密集すると陰となり枯れ枝が多くなるため、結果枝の切り返しや間引きせん定を中心に行った。

生産者らは初めての摘心樹のせん定のため質問が多く、「この枝のどのように切ったらいいのか?」、「慣れが必要」、「実践したい」等の意見があった。

当課では今後もJAありだやうめ研究所と連携して、ウメの生産安定につながる摘心技術の導入推進に向けて普及活動に取り組んでいく。



ウメ「南高」剪定講習会

2. ウメ「露茜」の樹勢強化栽培実証園を設置

農業水産振興課では、現地実証園（広川町上津木地区）を設置し、ウメ「露茜」の樹勢強化技術の確立に取り組んでいる。

「露茜」は、赤色色素や機能性成分が豊富に含まれており、新商材として注目を集めている。しかし、樹勢が弱く収量も少ないことから栽培が難しい品種である。

そこで、うめ研究所で検討している「露茜」主幹形仕立ておよび片側一文字仕立ての先端に「NK14」等の強勢品種を高接ぎする技術を導入し、樹勢強化と収量向上を図る。

1月24日に1年生苗木を定植し、今年発生する新梢に9月末頃に強勢品種の高接ぎを行う予定である。

今後は、生育調査や現地検討会等を実施し、当該技術の確立と普及に取り組む。



ウメ「露茜」の定植

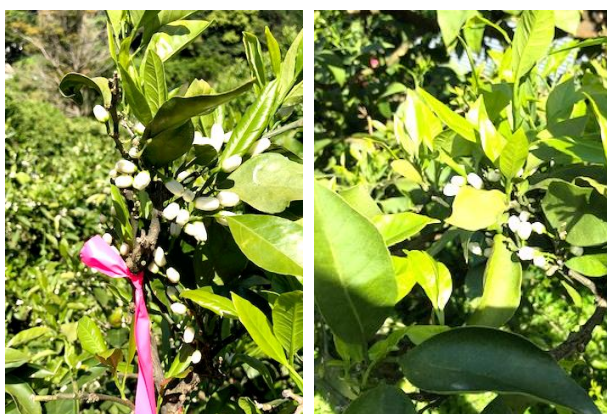
1. 「ゆら早生」の摘果作業の軽減による省力化と安定生産の推進

由良町は、「ゆら早生」を中心としたうんしゅうみかんの栽培が盛んな地域であるが、同町の園地の大半は急傾斜地にあり、管理作業の労力負担が非常に大きい。特に、摘果は夏期の高温下での作業のため、身体的な負担が大きく、省力化が課題である。また、同町の「ゆら早生」は、長年の着果負担やマルチング等の栽培管理により樹勢が低下傾向にあるため、その回復も課題である。

そこで農業水産振興課では、由良町における「ゆら早生」の着花量（初期の着果量）を適正化し、摘果作業の省力化並びに樹勢の回復につなげることを目的に、冬季に植物成長調整剤（ジベレリン 2.5 ppm+マシン油乳剤 80 倍）を散布し、花芽の着生を抑制する技術の普及を目指して活動を行っている。

本年度は由良町三尾川地区において展示ほ（園主：数見隆一郎氏）を設置し、効果の確認を行った。処理区では令和 2 年 12 月または令和 3 年 1 月に植物成長調整剤を散布し、令和 3 年 5 月に着花量を、7 月に摘果時間を調査し、無処理区と比較した。その結果、処理区では無処理区と比較して着花数、摘果時間ともに少なくなることが確認できた。園主からは「着花過多で困っている人は多いので、本技術が有用であることは間違いない。今後は、着花過多になりやすい園地を改めて選定し、収量や品質も含め実証していきたい」とのコメントがあった。

当課としても、本技術の導入条件を改めて検討し、同町の農家への普及を進めるべく、次年度以降も展示ほを設置し、活動していきたいと考えている。



無処理樹（左）および処理樹（右）の着花状況



摘果作業時間の測定

VI 西牟婁振興局

1. アグリビギナー等技術経営研修を開催

農業水産振興課では、新規就農者や若手農業者の技術や農業経営に関する資質向上を目的に、アグリビギナー等技術経営研修を開催している。

1月27日の第1回研修では7名が出席した。講師の白浜町富田地区で露地野菜や花きの多品目経営を行っている（株）四つ葉農園代表取締役の濱野孝人氏が、経営概要等について説明された。濱野氏は、法人化への取組経緯や法人化により人材を集めやすくなったこと、規模拡大するにあたり、農地の確保等苦労した点について自身の体験談を話された。その後、四つ葉農園の圃場に移動し、ソラマメの栽培管理や鳥獣害対策等について現地実習を行った。

研修を通じ、参加者からは、「法人化のメリットとデメリットを詳しく教えてほしい」、「規模拡大をしたいが良好な園地が少ない。どのようにして園地を探せば良いか」などの質問のほか、「自分も雇用を検討しているので、参考になった」、「スタッフが働きやすい環境づくりを目指したい」、「露地野菜や花きの栽培出荷の状況を知ることができた」などの意見があった。

当課では、第2回研修として、2月下旬に田辺市上秋津において、みかんのせん定実習を予定している。新規就農者や若手農業者が自身の経営を発展させ、地域の農業者との交流を深めていくことは、将来地域農業者のリーダーとして必要であるため、今後もこのような研修の機会を設けていく。



（株）四つ葉農園から経営内容説明



ソラマメの現地実習

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお莓”産地の体力強化】

～みくまの産地協議会産地面談会を実施～

1月5日、みくまの産地協議会（会長：漆畑繁生氏）がJAみくまの みさき支所（新宮市）で産地面談会を開催し、JAみくまのと新宮市役所職員、イチゴ生産者（元指導農業士）、農業水産振興課職員で対応した。大阪府在住の新規就農希望者は、昨年7月11日に和歌山市で開催したUI ターン就農相談フェアみくまの産地協議会ブースの相談者で、フェアでは新宮市での就農を強く希望していた。

当産地面談会では、就農の動機や計画、JA みくまのトレーニングファームの研修内容や就農準備資金について話し合った。面談の結果、新規就農希望者はJA トレーニングファームや管内の農家での研修を経て新宮市でイチゴ栽培を中心とした農業経営を行う意向であることを確認した。

今後も当課は、地域の主力である「くろしお莓」の産地強化のために新規就農希望者の就農を支援していく。



産地面談会（R4.1/5 新宮市）

Ⅷ 就農支援センター

1. 切り花の取り扱いに関する特別研修を実施

1月12日、就農支援センターにおいて社会人課程及び技術修得研修の研修生を対象とした特別研修「切り花の取り扱い方、フラワーアレンジメント」を実施した。この研修は、切り花の種類と水揚げなどの基本的な取り扱い手法並びに初歩的な装飾利用の方法を学ぶことを目的とし、講師に御坊市のバラ生産者でフラワーアレンジメント教室を主宰している山本修功氏と姉の山本明紀子氏を招いた。

はじめに、切り花の種類と取り扱いについて講義を行い、水揚げの方法では切り戻しのポイントや花材の大半をたっぷりの水に浸す「深水」について実演を交えて説明を受けた。

続いて、小さな花束の作り方とアレンジメントを実習した。花束作りでは、見栄えを意識した花材の長さや束ねる順序について講師からアドバイスを受けながらそれぞれが作成し、ラッピングを施して仕上げた。研修生らは、花束が萎れないように水を含ませたティッシュペーパーで保湿を施す方法を興味深く学んでいた。フラワーアレンジメントは、基本形のひとつで扇形に花材を配置する「ファン」を学んだ。バランスがとれた扇形に飾りつけるため、花材を切る長さや給水性スポンジに花を挿す角度などに気づきながら作品を作りあげた。

普段の実習で切り花の収穫や荷造りは経験しているものの、研修生の多くは自分の手で花を飾った経験が無く、「難しい。」と口にしながらも農家が栽培し、出荷した切り花が利用段階でどのように扱われるのかを知るよい機会となった。



山本明紀子氏の講義
(切り花の取り扱いについて)



実習
(花束づくりとフラワーアレンジメント)

2. 紀南地域で産地研修を実施

就農支援センターでは、研修生が県内農業者の元を訪ねて栽培の様子を見学したり、経営について見聞する産地研修を行っている。新型コロナウイルスの感染拡大によって秋の紀北地域での研修は中止となったが、紀南地域の研修を1月13日に日高、西牟婁両振興局の協力を得て実施した。

日高管内では、印南町の依岡正憲氏のうすいえんどうハウスを見学した。日高振興局の新田佳範普及指導員から日高地域におけるえんどう類の栽培状況について説明を受け、依岡氏

からは栽培のポイントや収穫・出荷の作業の流れ、経営の概要についてお話いただいた。依岡氏は、「就農当時に先輩農家から『手を抜くことなく作物の世話をして、自分が毎日見に行きたくなるようなほ場にしてください。』と諭され、これまでその言葉を忘れず実践してきた。」と語り、研修生らを激励してくださった。

田辺市では、秋津野直売所「きてら」で木村則夫氏（農業法人株式会社きてら代表取締役専務）から直売所設立の経緯と事業内容について説明を受けた。また、併設されているジュース加工施設や新設した柑橘の香油抽出プラント、更に近隣の晩柑類のほ場等を見学した。全国的な生産過剰による柑橘類の販売不振を地域の課題として捉え、その打開に向けて住民が結束して行動してきたこと、事業の継続には人を巻き込み、経済的に利益を生む仕組みが必要であるという木村氏の言葉に、研修生ら深く頷いていた。

この他にも、御坊市で前田昌紀氏のスターチス栽培施設を訪問した。



依岡氏のうすいえんどうほ場



木村氏（中央）から説明を受ける
（秋津野直売所「きてら」）



前田氏のスターチスほ場

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489